

深南部 丸盆岳～鎌崩岳（50周年記念山行）

2015年11月29日(日)

メンバー：池田T（リーダー・記録）、佐藤、佐々木

日本海と太平洋を結ぶ50周年記念山行の最終区間。
深南部の難所とされる鎌ナギを通過するこのルートは誰も行かないまま最後まで残っていたが、本格的な積雪が始まる前に何とか踏破出来た。
鎌ナギはやはり崩壊が著しく、浮石だらけで緊張を強いられた。そのぶん鎌崩岳に着いた時は記念山行の達成に寄与出来た感と相まって、充実感が得られた。

11/29(日) 晴れのち曇り

丸盆岳や黒法師岳への登山道である登高尾根は深南部の中では特に明瞭なルート。整備は行き届いており、道を見失うリスクは低い。
林道から約2時間で主稜線に上がった。そこは笹の原が広がっており、その中に踏み跡が丸盆岳に向かって続いている。



左奥に見える丸盆岳に向かって笹の原を進んでいく

笹の上にはわずかではあるが雪が載っており、地面が凍っていて滑り易い箇所があった。
途中で5人パーティーとすれ違った。昨夜は丸盆岳山頂で幕営したとか。静かな夜を過ごしたことだろう。



とりあえず丸盆岳山頂に到着。

丸盆岳から北が記念山行の未踏区間である。すぐに急な下りとなり、しかも凍結している所があるので緊張した。



丸盆岳山頂からの急な下り。西側が崩れている上に雪が付いていてイヤラシイ。

稜線上は狭い分、踏み跡は分かり易い。丸盆岳と鎌崩岳の間あたりの最低コルはちょっとしたギャップになっている。

降りる際は岩をクライムダウンしても良いし、少し手前から右斜面を巻いて降りても良い。ギャップの底にはアルミの梯子が架かっている。



ギャップを越えて少しホッとした所。

やがて核心部の崩壊地となる。草地から崩れ易い岩尾根にクライムダウンして慎重に進んで行く。大きな岩でも浮いている物があるので気が抜けない。四つん這いになって進んだ箇所もあった。



鎌ナギの核心部。



このガレた所を登り切れれば難所は終了。

崩壊区間は100m程度で長くは無いが、岩登りに慣れていないメンバーがいた場合は時間が相当かかるだろう。

今回は結局ロープを使わなかったこともあって、20分程度で通過した。

※途中に確保支点はほぼ無い。安定していそうな岩にスリングを引っ掛ける程度。



鎌崩岳の山頂に向かって緩やかに登っていく。

崩壊区間が終わった後は緩やかな草地を登っていく。間もなく鎌崩岳の山頂を示す標識に到着した。



ここで太平洋と日本海を結ぶ、50周年記念山行ルートがつながった！

標識から数十m進むと鎌崩尾根への分岐に出会う。標識は無いが赤テープは有る。まっすぐ北に進むと鹿の平、そして不動岳に至る。我々は左の道を降りていく。

踏み跡は概ね明瞭であるが、尾根が広くて平らな所では落ち葉に隠されて不明瞭な所もある。
ただ、赤テープは多いので明るければ見失うことは無いだろう。
林道に降り立った後はホッとした気分で山の話をしてながら帰路につく。

以上